

第1回「すみだタウンミーティング 子育てしやすいまちづくり」

日時：7月13日(水)9時30分から11時30分

子育て支援事業・施設について

1 墨田区の待機児童の実態と、今後の計画について

区長：墨田区の待機児童は134人であり、昨年度は76人であった。人口増加に伴い、待機児童も増加している。今後の計画については、今後2年間で800人の定員増を計画している。また、今年度保育ニーズ調査を行い、区民の皆さんの声を反映させた施策を行っていききたい。

2 他の自治体では市立幼稚園で3年保育を行っている自治体もあるが、墨田区立幼稚園はなぜ2年保育なのか。私立幼稚園で行っている延長保育を区立でもやってほしい。

区長：現状では区立幼稚園は教育委員会の所管、子育て支援事業は子ども・子育て支援担当の所管になっている。今後、考えを合わせながら幼稚園・保育園の在り方を検討していかなくてはならない。現在区内に私立幼稚園は8園、区立幼稚園は7園あり、幼稚園の在り方と合わせ、認定こども園の在り方も検討をしなくてはならない。

3 墨田区での預かり保育が少ない。はぐ、ファミリーサポートがあるが、手続きがわかりづらい。ホームページも見づらく分かりづらい。

区長：一時保育のニーズがあるにもかかわらず、手続きの煩雑さ、案内の不適切さがあるという大変貴重な御意見をいただいた。今後の子育て支援施策に活かしていきたい。

子ども・子育て支援担当部長：区立幼稚園での預かり保育について必要性を感じており、現在、検討している。私立幼稚園についても、預かり保育はできるよう区から申し入れをしている。学期中の預かり保育はいくつかの園がやっているが、長期休み中の預かり保育については、難しいのが現状である。

子育て支援総合センター館長：子どもの保育園等への迎えについて、ファミリーサポートのサポーターが会員同士の助け合いを基に行っている。はぐは利用要件があるが、状況に応じてはぐとファミリーサポートをうまく使っていただけるようぜひ登録してほしい。

区長：区のサービスが十分に区民の皆さんに伝わっていないことが問題である。また民間サービスの紹介等についても行っていきたい。

4 保活をしてみて、情報が少ないと感じた。保育園入園の選考について、細かく得点が定められているが、前年は何点で入園できたのか、昨年度の結果が非公開である理由を教えてください。

区長：非公開の理由の一つは、点数のボーダーは人口増加に伴い変化していくことが挙げられる。

子ども課長：選考の際にひとり親の家庭等には加点しているため、募集数が少ないクラスに入園した方の家庭環境が、点数から類推してわかってしまうことが非公開の理由の一つに挙げられる。子ども子育て会議でも今後の対応を検討していきたい。

質問者：園ごとの申込者数を公開してほしい。どこの園でもいいので、保育を行ってくれるところに入園させたいと思っている保護者もいる。

区長：率直な意見をいただき大変ありがたい。

子育てについて相談できる人・場所について

5 区内の町会会館を子育て世代の交流の場として利用させてほしい。

区長：子育て世代が子育てについて相談できる場所、地域の方々をつながることができる・知り合える場所の整備が必要だと考えている。

子育て支援総合センター館長：子育て支援総合センター・両子育てひろばでも子育て相談を受け付けているほか、子育てひろばで出張ひろば等も行っているため活用してほしい。また、東向島で既に始まっているが、民間でひろばの開設を計画されている方々もいる。今後、このようなひろば事業を増やしていきたい。

6 墨田区北部に子育て支援施設が集中している。南部在住者にとっては子どもを連れて行くのが難しい。

本所地域プラザ館長：本所地域プラザでは親子で遊べる畳のフリースペースがある。おもちゃやぬいぐるみもたくさんあるため、ぜひ利用してほしい。また、心理カウンセラーも定期的に来て、子育て相談にも乗っている。施設を回れるよう区内循環バスのルート整備が必要だと感じている。

区長：墨田区は広い区ではないため動きやすさはあるが、アクセスを便利にするためにも今後検討が必要だと感じている。また、地域によって施設が偏っている状況は望ましくない。児童館の在り方についても検討が必要だと考えている。

7 南部には子どもたちの安全な遊び場が立川児童館しかない。昔ながらの遊びを地域で継承できる場を作ってほしい。

区長：地域ごとに区民の皆さんが使える施設があることは大切であると考えている。南部の施設整備について、土地の値段が高いこともあり難しいのが現状であるが、地域によって施設の偏りがあるのは問題であるため、今後複合施設の建設も視野に入れつつ検討していきたい。

8 町会会館を利用して、区民の憩いの場や子どもの預かりを行っていくのはどうか。

区長：御提案をいただきありがとうございました。既にある施設の有効利用について、今後検討していきたい。

9 保育士不足を解消するために、子育て経験のある女性を活用すべきだと感じている。
子育て支援総合センター館長：40 時間程度の子育てサポーター講座をやっているほか、新たに保育士の保育を支援する、子育て支援員というものを設置している。サポーターは現在 133 名いる。はぐで一時保育に従事するほか、子育て支援総合センターの事業等で活躍してもらっている。

10 行政は発信力が弱い。わかりやすく発信していくことが大切であり、窓口に来た区民に説明をするだけでなく、職員が自ら街に出て行って発信することが必要である。

区長：発信力の弱さについて、指摘を頂いた。今後、区全体として改善していく必要がある。

11 区内に設置予定の保育園・多目的施設の情報について教えてほしい。

副参事（待機児童対策担当）：認証の保育所を移行させ新たに認可として定員を増加させる計画があるほか、この近くでは緑四丁目にチェリッシュあおぞら保育園が設置される。その他の情報については、区のホームページでも公開しているので参考にしてほしい。

子どもが安心して過ごせる場所について

12 小学生の娘がいるが、子どもが小学生になって急に子育てがしにくくなったと感じる。小学生の放課後事業について改善してほしい。

区長：小学生の放課後事業についてしっかりと整備をし、切れ目のない子育て支援をしていく必要がある。保育ニーズ調査を通して現状の把握を行い、対策を検討していきたい。

13 以下 3 点質問したい。保育園への入園時期が一度しかないため、その時期に合わせて入園させるしかなく、結果 0 歳など早期で入園させなくてはいけないケースがあり、待機児童が増える原因になっていると思う。予約制度などを作ってほしい。保育料について、兄弟で入園している時に受けられる減免措置が、上の子が卒園することで受けられなくなる。子どもが減ったわけではないのに保育料が上がるのは負担である。保育園の環境について、日当たりなどの配慮が必要だと感じる。

区長：保育園の入園時期について庁内でも検討しているが、予約制度の運用については検討しているところである。保育料の負担については、後ほど個別に話を聞かせていただき、状況を確認したい。保育園の環境について、整備が必要である。区でも現状を把握し、建築者と協議していきたい。

子ども課長：予約制度について、入園までの期間保育料収入がないため私立での実施は難しい。また、公立で実施する際にも、その間他の入園希望者を受け入れることができない

という問題もあり、検討しているところである。

14 他区と比べて、墨田区の子育て支援は財源の面でも、職員の対応についても劣っている。努力が必要である。

以前の都知事が公約で、公有地を建て替える際には保育園を併設すると言っていた。本所警察が移転する際、保育園の併設を区に要望したところ、公有地なので区に決定権はないと言われた。区から都に対して要望してほしい。

また、小学校では放課後に車で送迎をする民間企業（学童クラブ）もあるようだが、料金が高く、質も企業によって様々と聞いている。放課後の過ごし方について区として検討してほしい。

区長：このような意見を頂けてありがたい。暮らし続けたいまちにするという強い思いで区政を運営しているので、困っていることがあれば言ってほしい。

本所警察署の跡地については、現在、地元の皆さんからいろいろと意見を伺っている。地域の声を集めて、区として信念を持って希望をあげれば、都にも聞いてもらえる可能性が高い。区でも地域の声として、私が先頭にたって声をあげていきたいと考えている。

小学生の放課後について現状を把握し、どうやって子どもが安心できる場所を作っていくのかについて、今後、総合的に考えていきたい。

15 一か月の子どもがいて、入園させる園を選ぶためにいろいろ見て回った中で、ヒステリックに怒鳴っている保育士がいた。給料を上げるだけでなく、保育士の職場環境の向上を区として検討していくべきである。

区長：保育士の待遇について、区でも検討しなくてはならない。施設整備だけでなく、保育の質の向上も重要な問題である。園ごとに差がないよう、質を均等にしていきたい。墨田区の保育園は、区立・私立のつながりがしっかりしており、情報共有を行う連絡協議会がある。このような関係性を利用し、墨田区ならではの保育を実現したい。